

『科学技術基本政策策定の 基本方針』について

平成17年6月16日

総合科学技術会議

基本政策専門調査会長

第1期、第2期基本計画を通じ、日本の科学技術の基礎固めが進む。

- **研究水準は着実に向上、世界をリードする研究成果が出現。**

- ◆ 科学技術投資は、成果の結実までに多年度を要するが、公的支援により、我が国独自の研究成果が大きく育ち、新たに数千億円以上の市場を形成しつつあるものもあり。
- ◆ 米国に次ぎ、世界第2位の論文発表数
- ◆ 5年前と比較して、多くの分野で、対米・対EUの研究開発水準が向上

- **産学官連携や大学・研究機関の改革が進展。**

- ◆ 産学共同研究件数及び大学発ベンチャー企業数が増加。
- ◆ 国立大学や国立試験研究機関等の法人化

一方で、世界各国は優れた頭脳をどのようにして育てるか、で激しく競い始めた。

- 欧米のみならず、中国、韓国も含めた「知の大競争」が激化。
- 環境と経済の両立や少子高齢化のもたらす課題克服などが急務。

第3期科学技術基本計画は何を目指すのか

国民に分かりやすく、社会に役立つ科学技術

- 6つの政策目標（次ページ参照）を明示し、科学技術が何を目指すのか、社会・国民への貢献を明確化し、それを目指して政策を展開していく。
- 国民にも政策目標の達成状況を説明し、科学技術の理解と支持を得、国民とともに科学技術を推進。

科学技術により切り拓く『6つの政策目標』

<目標1>

飛躍知の発見・発明

～ 未来を切り拓く
多様な知識の蓄積・創造

<目標3>

環境と経済の両立

～ 環境と経済を両立し
持続可能な発展を実現

<目標5>

生涯はつらつ生活

～ 子供から高齢者まで
健康な日本を実現

<理念1>

人類の英知
を生む

<理念2>

国力の源泉
を創る

<理念3>

健康と安全
を守る

<目標2>

科学技術の限界突破

～ 人類の夢への
挑戦と実現

<目標4>

イノベーター日本

～ 革新を続ける強靱な
経済・産業を実現

<目標6>

安全が誇りとなる国

～ 世界一安全な国・
日本を実現

第3期科学技術基本計画は何を目指すのか

II

メリハリをつけて投資し、資金の有効利用を徹底する

○ 戦略的重点化の強化

- 多様な知と革新をもたらす基礎研究を推進
- 課題解決に貢献の大きい重点4分野（ライフサイエンス、情報通信、環境、ナノテクノロジー・材料）も、きめ細かく重点化。

○ 「安全と安心」への科学技術の貢献を高める。

○ 「国の発展の基幹としての科学技術」についても、選択と集中を基本として、今後、更に掘り下げた検討を行う。

第3期科学技術基本計画は何を目指すのか

III

研究者がいきいきと研究し、新しい発想が次々と生まれる

- **競争的研究環境の醸成**
 - 競争的研究資金の拡充と制度改革
 - 競争的資金と基盤的資金の適切なバランス

- **科学技術システム改革の推進**
 - 評価システムの改革、大学改革等の更なる進展
 - 産学官連携の推進、地域科学技術の振興
 - 科学技術基盤整備、知的財産による知的創造サイクル等

第3期科学技術基本計画は何を目指すのか

IV

将来を支える人材を大切にする

- 検討の基本姿勢：
「モノから人へ」
「機関における個人の重視」
- 科学技術を担う人材の育成・活躍の促進
 - 世界的に活躍する研究者・技術者の育成・確保
 - 若手研究者が能力発揮できる環境づくり
 - 女性研究者の育成、活躍できる環境づくり
 - 外国人研究者の受入れの促進
 - 技術経営人材、ものづくり人材などの育成・確保
 - 子どもの夢を育み、力を伸ばす環境づくり 等

例えば、若手人材をどのように育成し、能力を発揮させていくか

若手研究者が備えておくべき 素養・能力への指摘

若手研究者の能力に対する評価
(1355名の研究者アンケート結果)

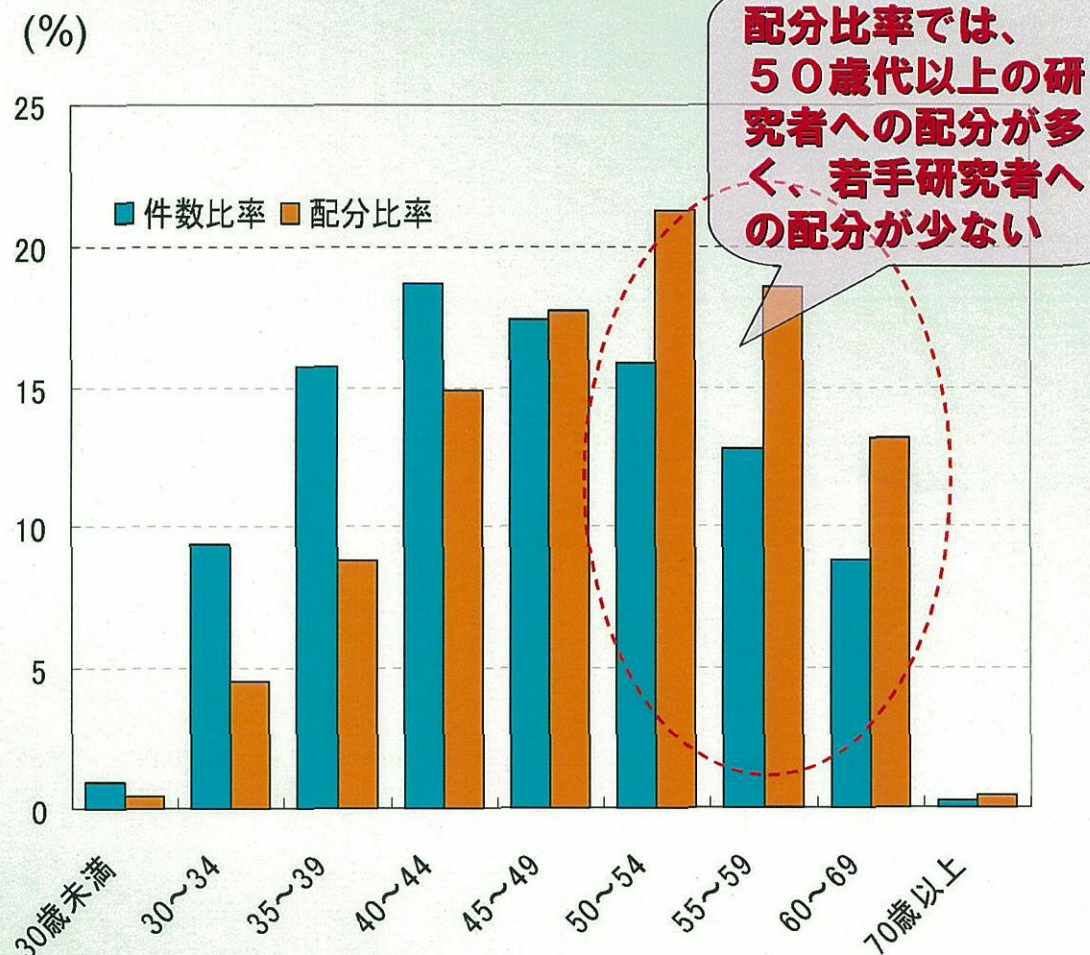
充足している ・ 専門分野の知識

過不足無し ・ 探求心
・ 課題解決力

不足している ・ 課題設定能力
・ 創造性

(出典: 科学技術政策研究所「科学技術指標(2004年度版)」)

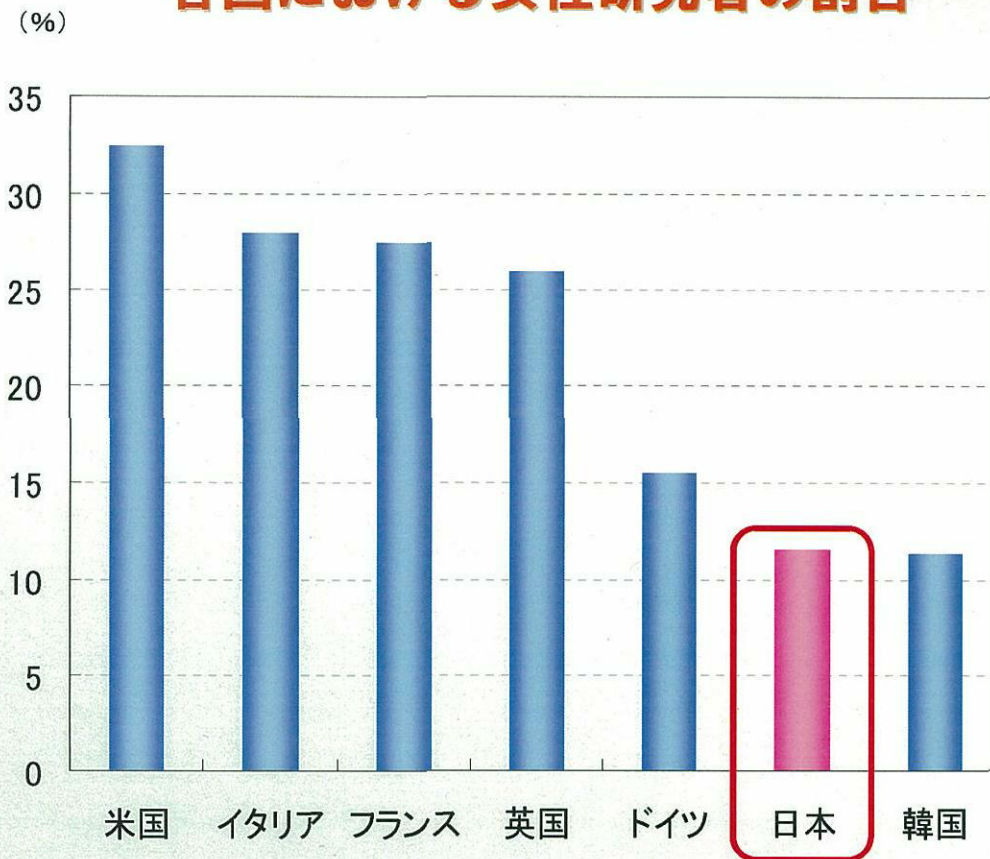
競争的研究資金の 研究代表者年代別配分状況(2002年)



(出典: 内閣府「競争的研究資金の制度改革(2003年)」)

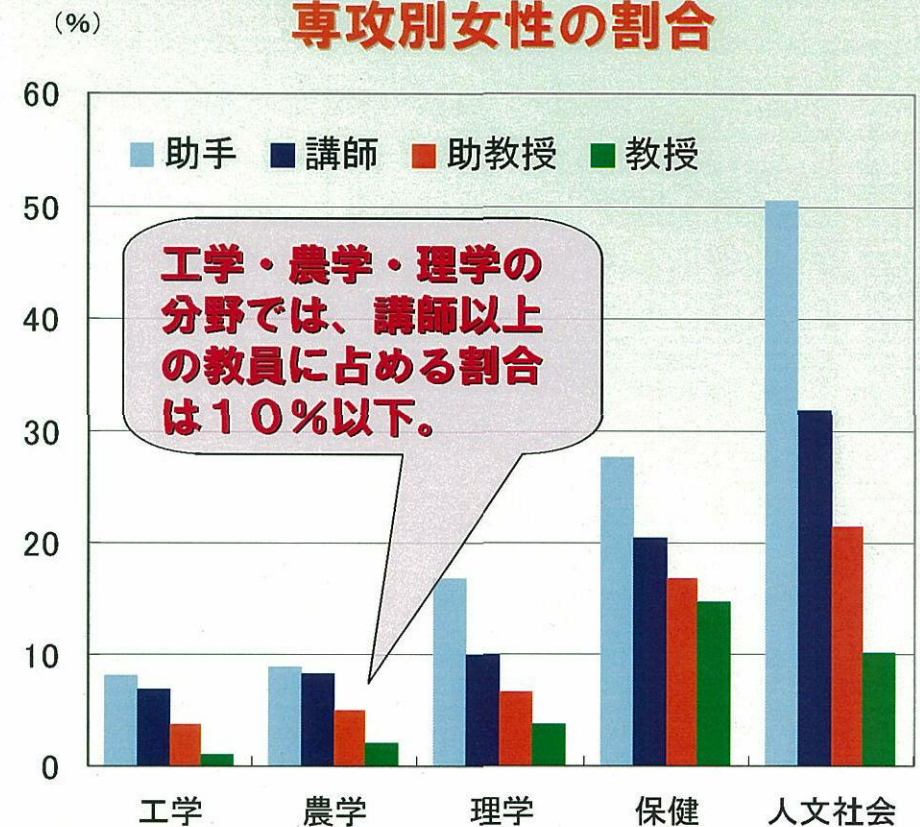
例えば、我が国の女性研究者の割合が国際的にみて
際だって低い状況を、どのように是正していくべきか

各国における女性研究者の割合



※ 日本、韓国は2003年、イタリア、フランス、英国、ドイツは2000年、米国は1999年。
 ※ 米国の数値は、「Science & Engineering Indicator 2004」においてScientistとして分類されたもの
 (総務省統計、NSF統計、OECD統計、EC統計から内閣府作成)

我が国の大学教員における専攻別女性の割合



(出典:文部科学省、学校基本調査(2004年))

第3期科学技術基本計画は何を目指すのか

V

長期的視点に立ち、日本の未来を創るための、5ヵ年計画

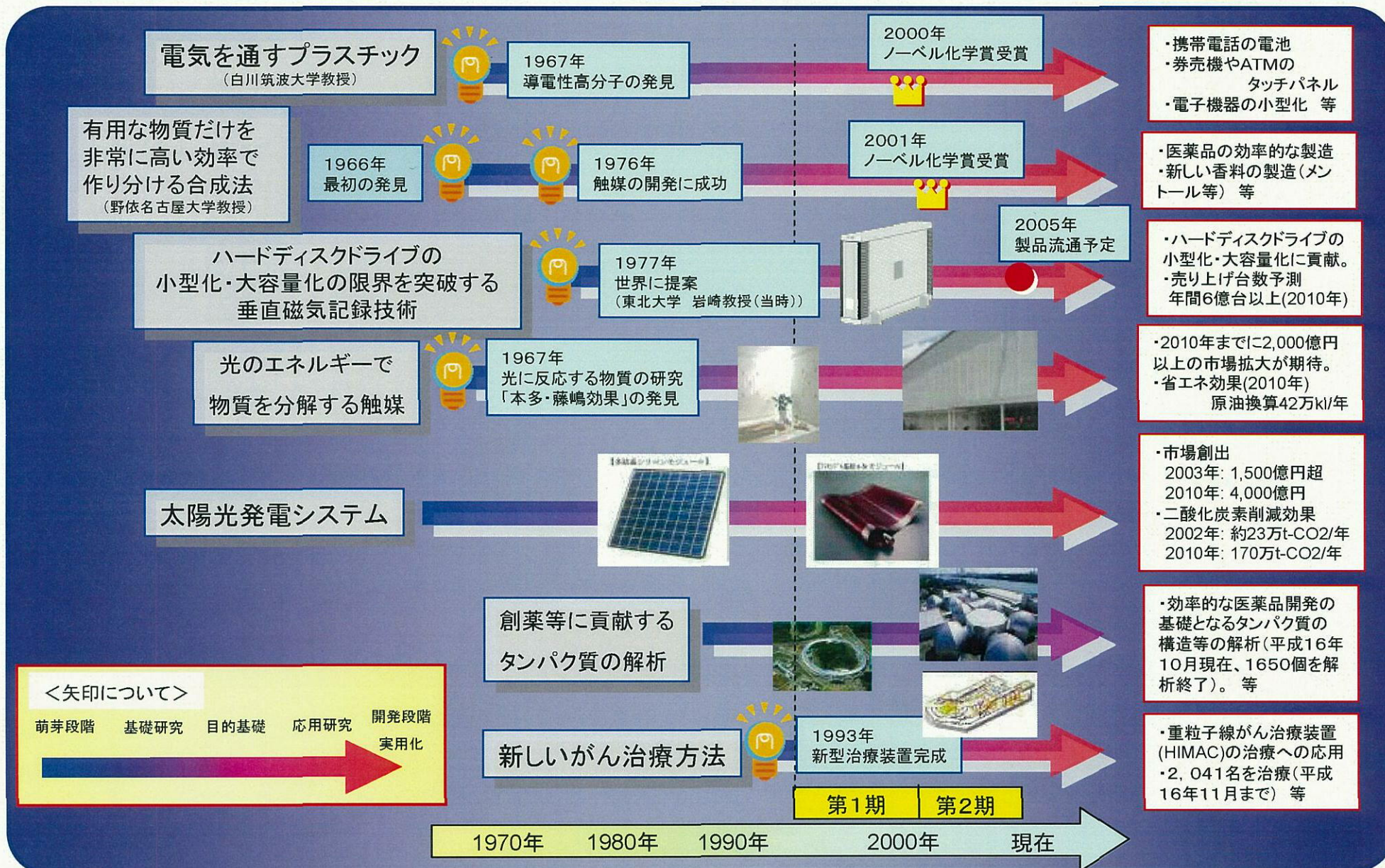
○ 総合科学技術会議の機能の充実・強化

各省の縦割弊害の排除、政府投資の一層効果的な活用、国民への説明責任の強化、戦略的国際活動等のため、司令塔としての機能の充実・強化が必要

○ 第3期計画の政府研究投資目標の検討

政府研究開発投資額の目標及び科学技術成果に関する目標については、第1期・第2期計画における実績、諸外国の動向、第3期計画における施策内容等を踏まえ検討

小さな芽を長期間育て、産業化などに開花した例が現れている これをいかに続け、広げていくか



科学技術関係人材の育成・活躍の促進① ー若手研究者が能力発揮できる研究環境整備

◆ 広い視野と創造性の育成、若手研究者が意欲を持って様々な研究機会に挑戦できる総合的な環境整備が必要。

若手研究者が備えておくべき 素養・能力への指摘

若手研究者の能力に対する評価
(1355名の研究者アンケート結果)

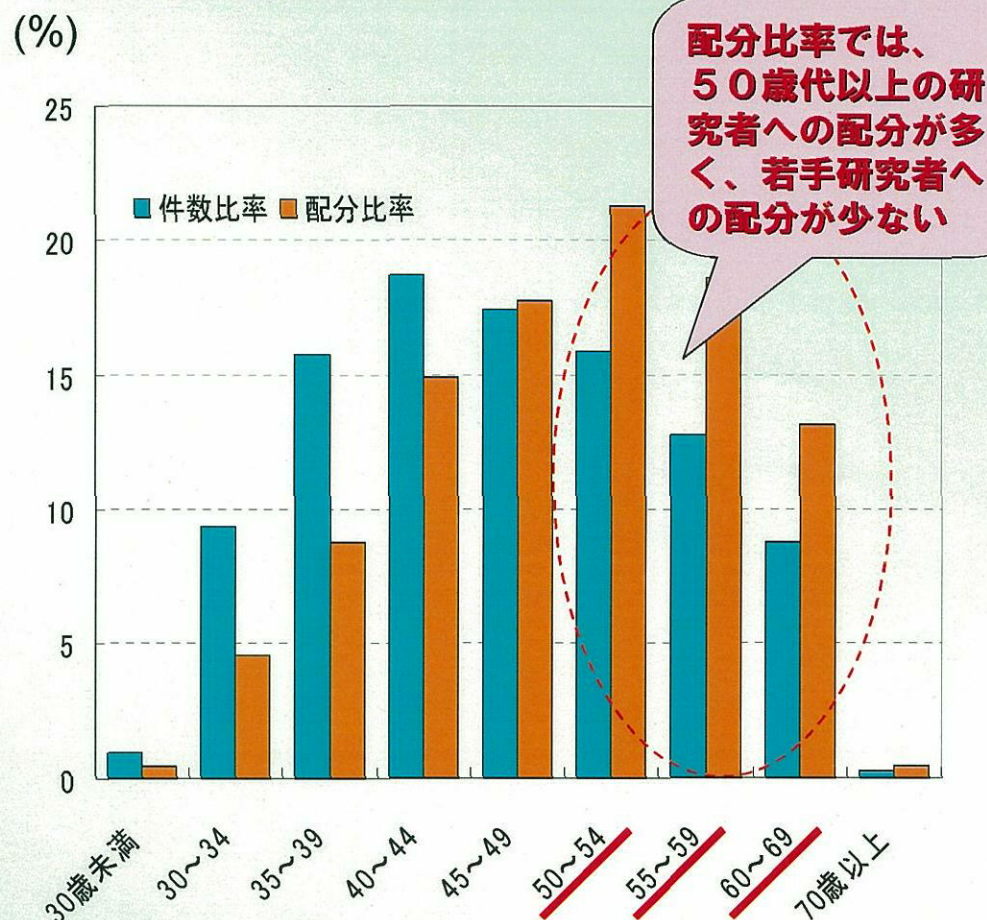
充足している ・ 専門分野の知識

過不足無し ・ 探求心
・ 課題解決力

不足している ・ 課題設定能力
・ 創造性

(出典: 科学技術政策研究所「科学技術指標(2004年度版)」)

競争的研究資金の 研究代表者年代別配分状況(2002年)

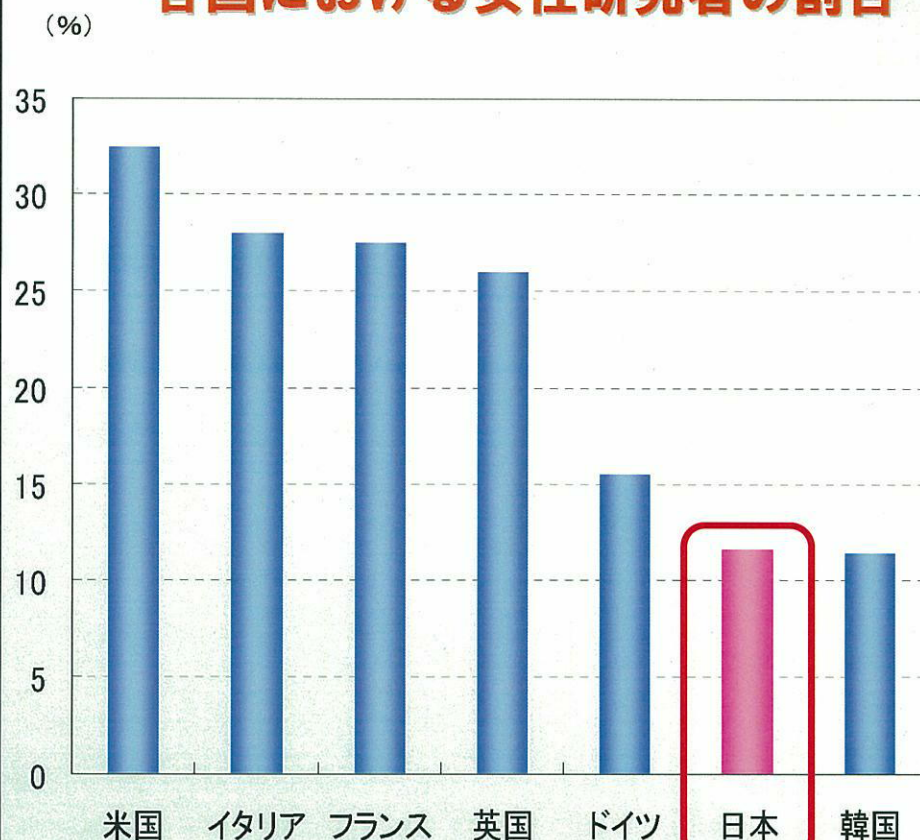


(出典: 内閣府「競争的研究資金の制度改革(2003年)」)

科学技術関係人材の育成・活躍の促進② ー女性研究者の育成、活躍できる環境の整備

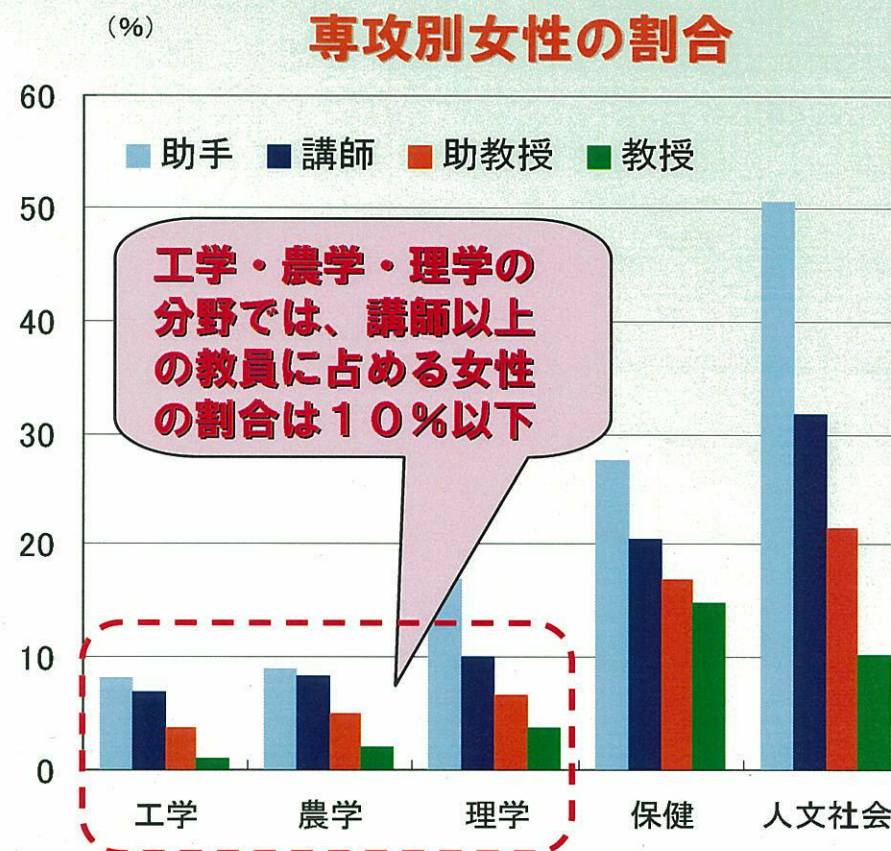
◆ 我が国の女性研究者の割合は、国際的にみて際だって低いことから、是正していくことが必要。

各国における女性研究者の割合



※ 日本、韓国は2003年、イタリア、フランス、英国、ドイツは2000年、米国は1999年。
 ※ 米国の数値は、「Science & Engineering Indicator 2004」においてScientistとして分類されたもの
 (総務省統計、NSF統計、OECD統計、EC統計から内閣府作成)

我が国の大学教員における専攻別女性の割合



(出典: 文部科学省、学校基本調査(2004年))